

氏名	館 かおる TACHI Kaoru
所属 職名	人間文化創成科学研究科人間科学系 教授
学位	文学修士（1975 お茶の水女子大学）
専門分野	女性学・ジェンダー研究（Women's Studies/Gender Studies）
URL	http://www.igs.ocha.ac.jp/
E-mail	tachi.kaoru@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

ジェンダー
規範と制度
東アジア
Web世界
教育

Gender
Norm and System
East Asia
World Wide Web
Education

主要業績

館かおる編『女性とたばこの文化誌—ジェンダー規範と表象』2011年3月 世織書房 総頁数 578頁

館かおる「歴史分析概念としての『ジェンダー』『思想』1036号 岩波書店 224-234頁2010年8月

Yoshifumi Masunaga, Naoko Oyama, Chiemi Watanabe, Kazunari Ito, Kaoru Tachi, and Yoichi Miyama, "SERPWatcher: A Sophisticated SERP Miner for Social Change Discovery," Proceedings of International Symposium on Social Intelligence and Networking (SIN-10) in conjunction with The Second IEEE International Conference on Social Computing (SocialCom2010), pp.465-472, August 22, 2010, Minneapolis, Minnesota, USA.

館かおる・吉沢寿香・土野瑞穂（共著）「福井県における「女性活躍社会」推進の取組とワーク・ライフ・バランス—「ふくい女性ネット」参加者調査から—」『近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」2009年度報告書』255-276頁2010年5月

「出口なお一男霊女体の女性教祖」総合女性史研究会編『朝日選書865 時代を生きた女たち 新・日本女性通史』朝日新聞出版 336-338頁 2010年4月

研究内容 / Research Pursuits

1. ジェンダー概念が多様な学問分野に広まっていく中で、ジョン・スコットの提起に立ち返り、「平等と差異」、「セクシュアリティ」の問題を取り上げ、「歴史分析概念としての『ジェンダー』」という論考をまとめた。2. ジェンダー規範と制度の連関に関する研究の一事例として長年取り組んできた、「女性とたばこ」の研究をまとめ、単行本として刊行した。3. 科学研究費補助金（B）「社会科学の新しい研究方法論としての統合型ウェブマイニング環境の開発研究」の研究としてSERPWatcherの実相に取り組んできた成果をまとめ、ジェンダー研究の方法論ツールとしての有効性の研究を継続した。4. 平成21年度から開始した、近未来事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」に参加し、福井県を対象に県と企業が連携して設置した女性ネットワーク事業「ふくい女性ネット」の研究調査を継続した。5. 学内科研で、「アジア・太平洋地域のジェンダーに考慮した人間開発に関する研究—政治、経済、社会領域を中心に—」のテーマで、研究会、セミナー、国際シンポジウムを開催した。

教育内容 / Educational Pursuits

1. <ジェンダー研究センター>主催の研究会、シンポジウムを開催し、大学院教育の充実に寄与した。「国際社会ジェンダー論」履修の一環とした公開シンポジウム「女性と国際協力：国際組織のジェンダー主流化の未来を考える」、UNDP専門員による「人間開発計画におけるジェンダー主流化」、「ジェンダー統計」の専門家による授業をコーディネートした。また、アジア工科大学院大学への派遣と受け入れ研修を担った。2. <授業、論文研究指導>は、<学部>生活科学部共通科目「ジェンダー論」、文理融合りベラルアーツ テクノサイエンスのジェンダー・ポリティクス」、<大学院前期課程>「ジェンダー基礎論」「同演習」「開発・ジェンダー論特論」、「国際社会ジェンダー論」、「国際社会ジェンダー論演習」<博士後期課程>「ジェンダー史論Ⅰ」「ジェンダー学際研究論文指導」を担当。論文指導では、修士論文「性器中心的セクシュアリティの相対化に向けて」の主査、博士論文「中絶権をめぐる法的議論の転換—身体の再概念化に向けて—」及び「地方議会における女性の政治参加—神奈川県におけるリクルートメント過程を中心に」の主査、「国際結婚における日本人女性配偶者とシティズンシップの政治—1980年代から90年代半ばまでの「国際結婚を考える会」の活動を事例として」、「生活記録サークルの実証的研究—1950年代女性繊維労働者における書くことの集団的实践と自己形成—」、「戦前期における小学校女性教員の<職業と家庭の両立>問題に関する歴史的研究」の副査を務めた。また、論文博士号「The Ideology of Japanese Women's Language: Historical Discourse Analysis」の副査も担当した。

研究計画

第1に、福井県を調査対象として、ロールモデルの視点からワーク・ライフ・バランスの研究調査を行ってきたが、さらに地方社会における産業形態と女性たちの仕事意識との関係をジェンダー分析していく。第2に、「満洲」というフィールドにおいて、コロニアル・モダニティやコロニアル・サイエンスのジェンダー分析を試みることも継続するが、新たに科学研究費が採択されたことから、東アジアと日本国内産業の連関のジェンダー分析も開始する。第3に、21世紀COEで開拓した「科学・医療・技術」領域のジェンダー研究という新領域をさらに拓くことを展望し、社会科学的方法論的ツールの開発を行い、ウェブ世界の「ジェンダー」の様相の解明に務める。

メッセージ

ジェンダー研究は、女性学の成立から数えても、まだ40年の歴史にも満たない新しい学問研究です。しかし、ジェンダー研究は、これからの世界が、20世紀システムでは立ち行かなくなったからことから生まれてきました。お茶の水女子大学には、日本の大学で初めて設立された、ジェンダー研究センターという場もあります。21世紀の世界で生きるあなたたちが、ジェンダー研究を学び、新しい世界を拓いて行くことを期待しています。